

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

都道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくば市立葛城小学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生(男子45名 女子28名) 5年生(男子41名 女子28名) 6年生(男子23名 女子20名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① <u>教科名</u> (体育・道徳) ② <u>行事名</u> (オリンピック・パラリンピック推進事業) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○現役アスリートとの交流を通して、努力することの大切さや他者への尊敬、フェアプレイなどの態度を育成する。 ○スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心等を育成し、児童が生涯にわたって健康な身体で居続けられるための知識や態度を育てる。
5 取組内容	<p><現役アスリートとの陸上競技体験会></p> 

期日：令和2年10月30日（金）

講師：筑波大学ツインピークス

筑波大学陸上競技部・陸上競技研究室

内容：陸上競技者としての普段の練習や心構えについての講話

速く走るための練習及び体験

<体験会での主な活動>

・4年生、5年生

変形ダッシュ（うつ伏せ、クラウチング、座位）プライオメトリクストレーニング、ジャンプフォーム練習



・6年生

膝上げ運動、変化走、20mダッシュ



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • 現役の陸上選手の話から、何事も諦めずに挑戦すること、仲間を大切にすること、目標を持ち続けることなど、今後の生活に活かすことができる教訓を得ることができた。 • 選手の生き方を通して、児童は自分の夢や目標、生き方について考えたり、日々の努力の大切さについて学んだりすることができた。 • 陸上競技体験を通して走ることの楽しさを味わい、児童のオリンピック・パラリンピックやスポーツ全体に対する理解や関心が大きく高まった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 筑波大学の現役アスリートを講師として招いたことで、児童がオリンピック競技を身近に感じ、興味・関心をもつことが出来るようにした。 • 個人競技と団体競技のどちらもある陸上競技を取り扱うことで、自己ベストの更新を目指して日々練習に励む様子や、選手同士の競技を超えた連帯感・一体感、お互いの良さを認めたり、励まし合ったりする姿などを児童に伝えることが出来るようにした。 • 豊かなスポーツライフを継続するきっかけとなるように、道具等の準備が少ない競技を取り扱うことで、児童が普段の生活から実践できるようにした。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • できるだけ子どもたちと選手が多く場面面で接することができるように、講師の人数を調整したり、競技の選定を行ったりした。しかし、それらに加えてコロナウイルス感染予防について、児童が安心して学習できるような活動にしなければならなかったため活動自体に難しさを感じた部分もあった。 • 今回は晴天だったため予定通り校庭で活動することができたが、雨天の場合、体育館の大きさや児童の人数の関係から活動が難しくなる場面があった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 体育や総合的な学習の時間等で、陸上競技を行う等、今回学んだことを継続して行えるようにする。 • 今回のような講演や体験などを可能な限り実施し、スポーツを楽しむ心や豊かなスポーツライフの実現につなげていきたい。また ZOOM や動画などを使って、コロナウイルス感染予防に気を付けながら活動することも視野に入れて活動を計画したい。